



岩手大学同窓会連合会報

No.7 2016年2月 発行



INDEX

会長挨拶、学長挨拶	P2
平成28年4月学部・学科再編について	P3
同窓会連合の活動状況	P4~5
各同窓会の活動状況	P6~7
岩手大学の情報	P8

岩手大学同窓会連合会長挨拶

会長 渡邊 喬



平成 27 年 5 月 27 日の第 13 回岩手大学同窓会連合理事会において、第 3 代同窓会連合会長を拝命し、6 月 1 日に就任いたしました。今まで同窓会連合には一祐会会長として携わってきましたが、今後益々、同窓会連合発展のため努力して参りたいと思っております。

さて、岩手大学では平成 28 年 4 月に学部・学科等の再編を行います。工学部は理工学部、農学部には水産システム学コースの設置など、地域のニーズに応えながら各学部の特徴を出しています。各学部同窓会の運営にも大きな影響を与え

ることになりますが、岩手大学の新たなスタートを同窓会一丸となってサポートしていきたいと考えています。

平成 27 年 7 月 25 日には、8 回目となる「卒業生・修了生と学長との懇談会」を福島市で開催しました。88 名の同窓生にご参加いただき、学部の垣根を越えて同窓生の絆を深めて頂く機会となりました。今後も同窓会連合ではこの懇談会を継続して参ります。

今後共、同窓会連合活動へのご理解、ご協力を切にお願い申し上げます。

岩手大学長挨拶

学長 岩淵 明



平成 27 年 3 月 16 日に学長に就任し、間もなく丸一年が経とうとしています。この間、平成 28 年 4 月に行われる学部・学科等の再編と教職大学院の設置、同じく 4 月から迎える国立大学法人第 3 期中期目標・中期計画の策定、地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)への対応、平成 29 年 4 月を予定している大学院修士課程の再編計画の検討と、岩手大学は休む間もなく改革を行っています。これらの改革の基本となっているのが校是である「岩手の“大地”と“ひと”と共に」です。地域に根ざし、地域を

先導する大学として震災復興や地方創生といった地域の課題に取り組んで行くことで、いずれは岩手大学独自のモデルを構築し、国内外に発信していきたいと考えています。

ご承知のように大学をめぐる財政状況は厳しい状況になっておりますが、これからの岩手大学の教育・研究、そして安定的な運営を行ううえで必要なのは、卒業生・修了生皆様のサポートだと思っております。今後も母校を常に気に掛けていただき、様々な形でご支援、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

平成28年4月学部・学科再編について

岩手の“大地”と“ひと”と共にある岩手大学は、平成28年4月に地域課題に対応するため、学部・学科の再編を下図のとおり行います。詳細については、岩手大学ホームページを参照願います。<<http://www.iwate-u.ac.jp/kaiso/>>

学士課程の再編移行図



平成26年度事業報告について

1. 理事会の開催

第11回：平成26年5月26日（月）
 議題 1. 平成25年度事業報告（案）について
 2. 平成25年度決算（案）について
 3. 平成26年度事業計画（案）について
 4. 平成26年度予算（案）について
 5. 卒業生・修了生と学長との懇談会（第7回）について
 6. 卒業生・修了生と学長との懇談会（第8回）実施について など
 第10回：平成26年12月10日（水）
 議題 卒業生・修了生と学長との懇談会（第8回）の開催について など

2. 運営委員会の開催

計2回開催（平成26年5月15日（木）、11月10日（月））

3. 「卒業生・修了生と学長との懇談会（第7回）」の開催

大学と共に主催し、懇談会及び懇親交流会を開催した。
 【内容】大学側から大学の現状と取組状況の紹介、意見交換 など
 日時：平成26年7月19日（土） 15時～
 開催場所：KKRホテル大阪（大阪市）
 参加者：64名

4. 会報の発行

平成27年1月 第6号発行
 （掲載内容）：岩手大学の震災復興への取組状況、平成25年度事業報告、卒業生・修了生と学長との懇談会（第7回）の報告、各同窓会の情報、大学の情報 など

5. 在学生への支援

大学で実施している「国際ボランティア事業等参加者支援事業」及び「海外留学派遣支援事業」の2事業の支援を行った。（金銭補助）
 ※参考◎H26年度国際ボランティア等参加者支援事業（申請者：8名、採択者：7名）
 ◎H26年度海外留学派遣支援事業（採択者：4名）

6. ガンダイニングへの協賛

岩手大学紹介番組「ガンダイニング」（IBC岩手放送）への協賛を行った。
 【主な放送内容】震災復興の取組、運動部の活躍、大学行事の紹介 など
 【放送日時等】平成26年10月7日（火）～平成26年12月30日（火）
 毎週火曜日／18：55～（3分間） 計13回放送（同日再放送 24：38～（3分間））
 平成27年1月31日（土） 特別版（1時間）放送

7. 東日本大震災に係る義援金の募集

東日本大震災で被災した岩手大学生を支援するため、義援金の募集を継続して行った。

※集められた義援金については、大学で行っている「東北地方太平洋沖地震岩手大学被災学生支援募金」に寄付され、在学生の修学支援資金として使用されている。

8. 開学記念行事への支援

同窓生に対し、岩手大学開学記念行事（平成26年5月31日（土））への参加を呼びかけた。

9. 卒業式・修了式への支援

卒業式・修了式（平成27年3月23日（月））に祝い花を贈った。

平成27年度事業計画と実施状況について

1. 理事会の開催

第13回：平成27年5月27日（水）
 議題 1. 平成26年度事業報告（案）について
 2. 平成26年度決算（案）について
 3. 平成27年度事業計画（案）について
 4. 平成27年度予算（案）について
 5. 次期役員等の選出
 6. 卒業生・修了生と学長との懇談会（第8回）について など

2. 運営委員会の開催

計2回開催（平成27年5月18日（月）、平成28年1月15日（金））

3. 「卒業生・修了生と学長との懇談会（第8回）」の開催

大学と共に主催し、懇談会及び懇親交流会を開催した。
 【内容】大学側から大学の現状と取組状況の紹介、意見交換 など
 日時：平成27年7月25日（土） 15時～
 開催場所：ホテル福島グリーンパレス（福島市）
 参加者：88名

4. 会報の発行

会報第7号を発行する。

5. 在学生への支援

「国際ボランティア事業等参加者支援事業」及び「海外留学派遣支援事業」を引き続き支援した。

6. ガンダイニングへの協賛

岩手大学紹介番組「ガンダイニング」（IBC岩手放送）への協賛を引き続き実施する。

7. 東日本大震災に係る義援金の募集

東日本大震災で被災した岩手大学生を支援するため、義援金の募集を継続する。

8. 開学記念行事への支援

5月31日（日）に開催する岩手大学開学記念行事への支援を行う。

9. 卒業式・修了式への支援

卒業式・修了式に祝い花を贈る。

《平成26年度 岩手大学同窓会連合 決算》

【収入の部】

（単位：円）

項目	予算額	決算額	差引額	備考
会費収入	2,000,000	2,000,000	0	4同窓会×500,000円
前年度の繰越金	2,559,470	2,559,470	0	
一時金戻し入れ	0	65,000	△65,000	懇談会会費おとり用一時金
その他収入	478	544	△66	利息
計	4,559,948	4,625,014	△65,066	

【支出の部】

（単位：円）

項目	予算額	決算額	残額	備考
事業費	1,904,400	1,680,411	223,989	①卒業生・修了生と学長との懇談会への協力 674,618（旅費、八万半代、会場費等補助） ②会報の発行 524,793（印刷費、発送補助費） ③在学生への支援 200,000（学生支援寄附金） ④ガンダイニングの協賛費 162,000 ⑤卒業式・修了式への祝い花 54,000 ⑥懇談会会費おとり用一時金 65,000
会長活動経費	100,000	21,200	78,800	
会議費	6,000	3,102	2,898	（理事会用お茶代）
事務費	23,000	9,029	13,971	（振込手数料）
予備費	2,526,548	0	2,526,548	
計	4,559,948	1,713,742	2,846,206	

収入決算額－支出決算額＝繰越額	4,625,014－1,713,742＝2,911,272
-----------------	-------------------------------

卒業生・修了生と学長との懇談会（第8回）の開催

平成27年7月25日（土）、福島市内のホテル福島グリーンパレスを会場に「卒業生・修了生と学長との懇談会（第8回）」が開催されました。この懇談会は、平成20年度から毎年実施されており、今回は88名の参加がありました。

懇談会では、まず岩淵学長から、岩手大学が目指している三つの項目として、「地域に根ざし、世界に羽ばたくグローバルな大学」「新しく復興を担う人材の育成」「岩手大学のアイデンティティの涵養」を上げ、新たに設立した「岩手大学イーハトーヴ基金」への協力を含め「本学学生の活動や大学の活動を気にかけていただき、いろいろなかたちでご支援、ご助言をお願いしたい。」との挨拶がありました。また、渡邊同窓会連合会長から、同窓会連合の設立趣旨、卒業生・修了生と学長との懇談会の今後の継続について説明があり、「平成28年4月に岩手大学では学部改組が予定されています。各学部同窓会の運営にも影響が出てくるかとは思いますが、大学が発展するための改革であることにご理解いただき、今後も同窓会一体となって全面的に協力していきたい。」と挨拶がありました。

続いて、小川理事（総務・企画・評価担当）から、本学の現状、震災復興への取組状況、そして平成28年4に行われる学部・学科改組について説明があり、各学部長からは学部ごとの詳細について説明がありました。

その後の質疑応答・意見交換では、福島県での震災復興活動の取組や再生可能エネルギーの研究開発についてといった被災地の視点からの質問があったほか、留学生の受入状況・体制、学生の英語教育といった大学のグローバル化への質問もあり、現在のサークル活動の様子や学寮の様子も含め様々な質問および意見が出され、参加者の母校への関心の高さを窺い知ることができました。

懇談会の最後には、各同窓会長から挨拶があり、最近の活動についての報告などがありました。

懇談会終了後に行われた懇親交流会では、学部年代に関わらず親睦を深め合い、最後は参加者全員で学生歌を歌い、盛会のうちに終了しました。

次の開催日、会場については決まり次第ホームページ (<http://alumni.iwate-u.ac.jp/>) に掲載いたします。



懇談会の様子①



懇談会の様子②



懇親交流会の様子①



懇親交流会の様子②

ガンダイニングへの協賛について

岩手大学同窓会連合では、岩手大学の様々な活動やあまり知られていない魅力を卒業生や地域の皆様に知ってもらい、より親しまれる大学になれるよう岩手大学を応援するために、岩大を紹介するテレビ番組「ガンダイニング」の協賛を行っています。

この番組は、大学内の様々な取組や研究、学生の姿を紹介する番組で、今年で第11回を数えます。アシスタントナビゲーターを務めるお馴染みの岩手大学イメージキャラクター「がんちゃん」をはじめ、現役の岩手大学生がリポーターを務め、大学の“いま”を元気に伝えています。

【平成27年度放送日程】

●IBC岩手放送 ●平成27年10月6日～12月29日 ●毎週火曜日 18:55～ ●計13回

※今年度放送した分については、以下のページからご覧いただけます。

■岩手大学ホームページ <http://www.iwate-u.ac.jp/koho/gandaining.shtml>

■岩手大学公式Youtubeチャンネル <https://www.youtube.com/channel/UC8ua2BprbPkSvGSMYwk1aOA>



リポーターの西川さん(左)と上野さん(右)



七友会

人文社会科学部 同窓会

Shichiyukai

《活動報告》

今年度も現役学生に対する就職支援活動、同窓会会報『七友会だより』の発行、評議会の開催と活動を進めてまいりました。また同窓会全体の活動ではないものの、第1期入学生の初めての同期会が、7月に盛岡地域交流センター（マリオス）の展望レストランで開催されました。63名の参加があり、大学時代の思い出話を花を咲かせるとともに、還暦を迎える平成30年の次回同期会開催を予定するに至りました。学生時代の絆を再確認する動きが、他の世代にも波及することが期待されます。

◆就職活動支援

人文社会科学部の学部生を対象として、平成27年2月（第4回）と6月（第5回）に「進路選択セミナー」が、七友会・人文社会科学部就職委員会の共催により行われました。第4回講師は都市銀行勤務の同窓生と新聞社勤務の同窓生が、第5回講師は地方公務員（市役所）・国家公務員（国税専門官）・公認会計士の同窓生が務めました。いずれの回も60名を超える学生が参加し、社会における先輩の活躍や働く上での心構えなどを聞くことができました。またセミナーの第二部として行われたフリートークのセッションでは、講師以外の同窓生も参加して、参加学生と社会人である同窓生が就職活動や仕事様々な話題で交流を図りました。参加した学生の皆さんは、就職活動を進めるための有益な情報が得られたことと思います。

◆会員への情報提供

同窓会会誌『七友会だより』を2回〔第40号（3月）、第41号（9月）〕発行しました。またインターネット上での情報提供手段として、七友会の公式web「七友会.net」（<http://www.shichiyukai.net/>）、七友会関東支部web（<http://jinsya.com>）が運営されています。岩手大学や同窓会のニュース、イベントの告知をはじめとして、同窓会に関する情報を提供しており、『七友会だより』も過去にさかのぼって閲覧することができます。また会員の住所等の登録データの更新届の受け付けも行っています。

◆評議会の開催

平成27年度の評議会は、6月13日（土）に岩手県民交流センター（アイーナ）816会議室において開催されました。13名が出席し、事業の報告と計画、決算と予算、個人情報保護方針といった案件について決定がなされました。なお、これまで検討が進められてきた「同窓会設立35周年記念同窓会」については、平成28年9月に東京での開催を軸に、検討が進められております。



人文社会科学部第1期生同窓会

一祐会

工学部 同窓会

Ichiyukai

●学生支援事業の実施

就職活動支援としての「岩手県内企業説明懇談会」を平成26年11月、12月、平成27年1月、2月の4回に亘り共催した。今後も、一祐会学生支援事業の一環として共催していく予定です。

●岩手大学内教職員（一祐会員）懇談会の実施

平成26年12月17日（水）18:00～工学部生協2Fにおいて15名の参加。年一度の開催という貴重な機会ですが、今回は例年に比べ参加者が少なく、次回の学内懇談会には多数のご参加をお願いする次第です。

●会誌「北杜」63号の発行

平成27年3月1日会誌「北杜」16,800部発行。表紙は総合教育研究棟（5号館）です。特集として、田口恒智元一祐会会長の追悼記事を組みました。田口元会長は、昭和23年7月から平成2年5月までの長きに亘り、一祐会の運営と会の発展に尽力されました。また、昭和22年の新学制制度移行の際には中心となって活動され、当時の農専、高専、師範、青年師範の四校複合による岩手大学の設立に寄与されました。詳しくは、「北杜」63号をご覧ください。

●平成27年度一祐会定期総会の開催

平成27年度一祐会定期総会は、平成27年5月16日（土）14:00-16:00、工学部復興祈念銀河ホールにおいて開催しました。当初、開催場所として予定していた一祐会館大ホールは、内装工事の完成引渡しに間に合わず銀河ホールに変更となりました。

た。ご出席の皆様にご迷惑をおかけしたことをお詫びします。総会では、「議案（2）平成27年度事業計画（案）および予算（案）」の中で、工学部学生を主体とする、岩手大学鳥人間滑空機チームの鳥人間コンテスト（読売テレビ放送（株）主催）出場登録決定を受けて、一祐会の学生支援事業の一環として応援することが了承されました。また、定例の議題に加え、「議案（3）個人情報の取り扱い要綱について」として「一祐会個人情報保護規則（案）」が審議され、文言の修正等を理事会に一任することで、承認されました。「議案（5）会則について」では、平成28年度岩手大学改組による工学部から理工学部への移行に伴う会則変更が承認されました。同時に「議案（6）科会編成について」で、理工学部の新学科に対応する科会の構成についての提案があり、各科会の判断にゆだねることで了承されました。



平成27年度総会（懇親会）

北桐会

教育学部 同窓会

Hokutoukai



北桐会常任理事新役員歓迎会並びに盛岡支部役員との情報交換会

平成27年度の北桐会は、6月に評議委員会を開催し、年度計画が承認され、常任理事会を中心に会務を進めて参りました。常任理事会のメンバーとして新しく教育学部に佐々木 全先生、教員支援センターに中村 宗宏先生が着任され、盛岡支部では富谷 行雄会長（北桐会副会長）が就任されましたことを報告いたします。これを受けて、9月には北桐会常任理事新役員歓迎会並びに盛岡支部役員との情報交換会が行われました。

60周年を経過しこの数年の同会の活動の中心は、支部組織の拡充と諸規定の整備であります。今年近畿支部の新設は西日本における初めての支部結成であり、若い会員の参加を含めて大いに期待を寄せているところです。北桐会は、教員組織を中心とした支部を多く見受けませんが、一般企業へ就職された卒業生も多く、本部と情報を交換し、今後も新しい地域での支部組織の立ち上げを歓迎したいと思います。

昨年この紙面でご紹介しました、大学改革に伴う教育学部改組は、大きな変化を北桐会へも当然もたらしております。文科省が全国の教員養成（教育学部）に求めている改革は、将来の教員需要や少子化を見通して教員養成の縮小と小学校教員養成を重視すること。所謂ゼロ免課程（新課程）を廃止、生涯教育課程や芸術文化課程の募集を停止すること。既存の教育学研究科（学校教育実践専攻、教科教育専攻）を「改組」（二専攻の廃止）し、新たに教職実践専攻（教職大学院）を設置することの3点に集約されます。全学での議論と文科省との協議を経て、学部としての改組案の骨格が固まったという状況です。2016年度からの具体的な内容（詳細は北桐55号参照ください）は、募集定員

を教員養成課程160名で構成し、小学校教育、中学校教育、理数教育、特別支援教育の4コース制を採用します。新課程（生涯教育課程と芸術文化課程）は廃止し、新課程に位置付けている美術・音楽・体育は教員養成課程の中学校教育コースに組み入れ、課程認定以外の部分は人文社会科学部の改組に位置付けることで、芸術・スポーツの分野の機能維持を図ることになります。なお、学部の卒業要件として複数の免許取得（小・中、中・中等）を義務づけているだけでなく、教員養成の充実を図るために教育実習の4年間のシステムや現代的・地域的教育課題に応えるためのカリキュラム（ICT教育や復興教育、複式教育等）等の整備を図っています。加えて、小学校教育コースに所属する学生は入学後13のサブコース（従来の学科）

に所属し、それぞれの専門性を深め、卒業研究に従事させる体制を維持していきます。北桐会としては新準会員90名減を想定とした、活動の内容を早急に検討することとしています。12月に開催されました理事会において、今後の活動内容の概要と、新たな予算計画が審議されました。2016年に開催される北桐会評議員会におきまして大きな議題になります。

今後は黒川会長を中心に活動内容の見直しと節約予算の構築に向け常任理事会での検討を重ねていきます。会員の皆様のご支援もより必要になりますので、どうぞ宜しくお願いいたします。本年も北桐54号を発行し、会員の皆様にお届けいたしますので、あわせてそちらもご覧いただければ幸いです。

北水会

農学部 同窓会

Hokusuikai

《この一年 トピックス》

● 駒形和男氏（農芸化学科 昭和23年卒業 東京大学名誉教授） 日本学士院エジンバラ公賞受賞

平成26年7月、北水会会員 駒形和男氏が日本学士院エジンバラ公賞を受賞されました。同賞は昭和26年に「日本エジンバラ公賞」として日本学士院名誉会員であるエジンバラ公フィリップ殿下からの申し出により創設されたもので、受賞研究題目は「微生物の分類学的研究と微生物系統保存事業に対する貢献」です。

氏から受賞を記念して同窓会誌「北水会報第130号」（平成28年1月発行）に、『私の盛岡農林専門学校』と題して特別寄稿いただきました。冒頭『私が盛岡農林専門学校で学んだのは、昭和20年（1945年）4月から昭和23年（1948年）3月までの3年間である。入学したときは、本土決戦が叫ばれた時期であり、その年の8月には終戦を迎えた。そして、戦後の混乱を経験した。しかし、このなかにあつて、私たちは、盛岡高農以来の伝統と盛岡という街の人情のなかで、心豊かな日々を送ることができた。』とあります。そして、指導いただいた多くの先生との思い出、戦中、戦後の混乱期に過ごした自啓察での生活など、その後の人生の大きな糧となったことが記されています。そして、『終戦の当日、午後4時頃、担任であった神立誠先生がわれわれ1年生を集め、「研究のためには、その準備に5年もかかることがある。こういう事態になったからと

いっても、将来のための勉強を怠るな」という意味のことを言われた。このことは、私の生涯で最も強烈な教えとして心に刻まれ、研究者として生きるための心の支えとなっている。（中略）私にとって、盛岡は親しい友人と思ひ出深い日々をすごしたところであり、人生の方向を決めるうえで忘れることのできない方々との出会いがあったところである。（中略）校庭から仰ぐ春の岩手山、また、寒さとともに中腹から紅葉の線がおりてくる様は今でも忘れられない風景である。終戦後、思想、教育、食糧、衣類、住宅、すべてが無にひとしくなった時代に、盛岡高等農林学校の伝統を受け継ぐ盛岡農専で学び、落ち着いた盛岡の地で暮らしたことは、幸いであった。』と書かれています。

北水の池に浮かぶ、スイレンの花の咲き競う季節が待ち焦がれます。



冬の寮。だるまストーブと薪が唯一の暖房。

岩手大学説明会を 函館市と札幌市で開催

平成 27 年 8 月 24 日及び 25 日、岩手大学説明会を北海道函館市と札幌市において開催しました。北海道新幹線開業を見据えた、北海道での説明会開催は昨年度に続き今年で 2 回目となり、岩手大学からは各学部の広報担当教員等のほか、岩淵明学長と小川智理事・副学長が赴き、岩手大学のトップセールスを行いました。

両日とも、高校・予備校教員向けの説明会と高校生・保護者向けの説明会を、時間を分けて開催しました。高校・予備校教員向けの説明会では、進路指導担当教員より改組に関する質問が多く出され、学長・理事等と活発な質疑応答を行いました。高校生・保護者向けの説明会では、各学部に分かれて個別相談会を実施し、各学部ブースの他、入試や学生生活についての相談ブースも設けました。説明会に参加した高校生は、自身の学びたい分野が岩手大学で学べるか各学部ブースで確認するとともに、岩手大学の立地、岩手県での生活環境、大学からの経済支援内容などについて個別質問していました。

函館会場・札幌会場ともに、昨年度よりも多くの来場者が訪れ、北海道内の高校生の岩手大学への関心の高まりを感じられる説明会となりました。



高校教員向け説明会にて挨拶する岩淵学長

国連防災世界会議に 参加しました

平成 27 年 3 月 14 日から 18 日にかけて仙台で開催された第 3 回国連防災世界会議に岩手大学地域防災研究センターも参加し、防災に関するフォーラムや展示を行いました。

岩手大学主催のフォーラム「地域社会のレジリエンスとキャパシティ・ビルディングー被災地での岩手大学の実践と検証ー」では岩手大学がこれまで取り組んできた緊急対応、地域コミュニティの再生、防災教育・研究、なりわい再建の支援、防災・危機管理人材育成プログラムの開発に関する実践活動の報告を行いました。パネルディスカッションでは復元力のある地域社会づくりについて意見を交換しました。フォーラム参加者及び来場者とともに被災地にある大学の役割について議論・共有する機会となり、岩手県の潜在力を活かした取り組み、被災したコミュニティの再建、復興の現場における若者や女性の参画、多様なステークホルダーの連携、市民がリーダーとなった持続可能な開発、地域を担う人材育成の重要性などが確認されました。

今後も本学で取り組んでいる防災教育・研究活動を発信し、三陸沿岸から日本、そして世界にも貢献できるよう努めてまいります。



フォーラムで挨拶を行う岩淵学長

小泉進次郎復興大臣政務官との意見交換を実施しました

岩手大学は、6 月 1 日に迎える 66 回目の開学記念日を前に、小泉進次郎復興大臣政務官（当時）を迎えての意見交換会を平成 27 年 5 月 31 日に開催しました。

第一部として、岩淵明岩手大学長及び理事らが、小泉政務官に対し、これまでの岩手大学の東日本大震災の復興へ向けた取組、現在の復興支援体制、岩手大学三陸復興推進機構の活動の概要を説明し、その後意見交換を行いました。

第二部として、小泉政務官と復興支援活動を行っている学生とでタウンミーティングを実施しました。留学生を含む学生や卒業生ら 12 名が参加し、三陸復興推進機構「学習支援班」「ボランティア班」「地域コミュニティ再建支援班」の活動概要を紹介後、小泉政務官、岩淵岩手大学長を交え、復興に関して意見交換を行いました。

小泉政務官からは「実際に行動を起こした皆さんを評価しています。今後の活動やアイデアにも期待しています。」と激励の言葉が贈られました。



農業教育資料館前での小泉政務官と学生とのミーティング風景

編集
後記

岩手大学同窓会連合設立され、7 年が過ぎようとしています。様々な活動を進めてまいりましたが、大学改革等の動きと共に連合の活動や予算面の見直しの検討が始まりました。この連合ができて、一番に感じたことは、各同窓会の垣根が低くなり、学長と卒業生・修了生との懇談会等の場で、お互いの交流が進んだことだと思います。連合だからこそできる交流を後輩たちへも届けていきたいと思っておりますので、これからも会員の方々からのご協力を宜しくお願いたします。(W)

岩手大学同窓会連合会報 No.7
2016.2 発行
発行事務局
〒020-8550 盛岡市上田三丁目18-8
TEL.019-621-6015
FAX.019-621-6014
E-mail:dosokai@iwate-u.ac.jp